



名古屋いのちの電話

1997年度 事業報告



写真 文珠 幹夫

小泉吉宏

心って変化するし

じつ々かたちもなけれは

つかまえることもできな

悲しい時

悲しい心をつかまえて

ほんのり投げるとはさぶさぶい

心は悲しいままで

ずっといるよじいちゃんだ

小泉吉宏著

ブッタとシッタカブッタ2

「そのまんまでいいよ」より

企業とボランティア

東海銀行 常務取締役
愛知のちの電話協合理事

鈴木 郁雄



地域社会との共存を基盤とする金融機関にとって、地域社会に貢献する活動・社会貢献活動は重要な経営課題です。東海銀行も、企業理念の中に「社会と共に躍進し続ける企業を目指す」を掲げ、本来業務や機能により社会的・公共的使命を果たすことはもちろん、独自の社会的活動を通じて地域社会への貢献を実践しています。古くは昭和48年11月に銀行内に「公共活動促進委員会」を設置し、組織的展開をスタートしました。意識啓蒙のため、行員に小冊子を配布したり「花いっぱい運動」や「地域貢献運動」を展開したりいたしました。その後、昭和50年5月には、自然・生活・文化環境の整備向上に資する事業を展開する「東海財団」を、昭和58年9月には、国際交流に貢献する諸事業を実施する「東海銀行国際財団」を設立し、財団を通じて社会貢献活動に注力する一方、銀行自身でも「東海銀行小さな親切の会」設置や国連難民高等弁務官事務所の活動支援など、全行レベルで多岐にわたる社会貢献活動に積極的に取り組んで来ています。

私自身は偶然にも昭和50年当時より4年半ほど銀行の公共活動推進の担当者として、こうした活動の立ち上げに携わった経験があります。この時に感じたことは、こうした活動はややもすると企業のPR活動になったり、頼まれて仕方なく行う寄付行為的なものになりがちである、ということでした。一方で何の見返りも求めず、ただ感謝の気持から、そして自らの力で地域の隣人に少しでもお役に立ちたいと願う心から出た「小さな活動」でこそ参加者が大きな喜びを感じていたことを思い出します。

私と「いのちの電話」との出会いは自らの意

志からではなく、私の銀行における役職の関係からたまたま評議員にご指名いただいたことから始まりました。しかし、ご縁をいただいた以上とにかく評議員会にだけは、出来る限り最優先で出させていただこうというところから始まった私と「いのちの電話」との関りの中で、私はこの社会福祉法人がいかに多くのボランティアの方々「好意」と「奉仕の気持」そして「熱意」で成り立っているのかを知りました。こうした純粋な気持の尊さを改めて身にしみて感じたというのが素直な実感でした。それ以来、私自身も小さな力しか持ち合わせていませんが、限られた力の中で少しでもお役に立とう、そんな気持で評議員としての5年間程を過ごしてまいりました。しかし現実には自分の意志の弱さに幻滅を感じつつ現在に至っているというのが本音であります。

日本の社会全体が成熟化し一方でグローバル化が急速に進む中で、最近の社会現象をみるにつけ、権利のみを主張したり、ジェラシーから人をおとし陥れたり、自分のエゴむき出しの行動が多くみられるなど、懸念される面がある一方、阪神大震災等でみられたボランティア活動、あるいは目に見えない地味な多くのボランティア活動が行われていることも一方の事実です。こうした地味で「小さな活動」を社会がどう育ていけるかがその社会そのものの健全性を表わすのではないかと思います。

私も銀行の社会貢献活動の立ち上げに参画した人間の一人として微力ですが企業内の社会貢献に対する意識の浸透を図るとともに、個人として地に足のついた活動を継続して実践していきたいと考えているところです。

昨年五月に神戸市須磨区で起きた連続児童殺傷事件は人々に大きな衝撃を与えました。更に少年による「ナイフ殺人」「強盗」「覚せい剤乱用」「おやじがり」「援助交際」などの広がりは世の苛立ちや不安を誘い、少年に対する強硬策肯定の気分を広げています。警察庁は少年「逮捕」多用を宣言し、強盗もどきの粗暴犯少年の強盗犯（凶悪犯）としての検挙も増加の様です。あちこちで「少年法改正」が声高に主張され、少年に対する死刑や無期懲役判決も当然視されて来ています。文部省も毅然とした対処を呼び掛け、「青少年育成の権威者たち」もこれを弁護し、既に警察と学校との人事交流も開始されています。状況から止むを得ない措置なのでしょうが、一昔前のアメリカの事態が思い出されます。

然し「残忍な攻撃を慎重に計画した凶悪な少年」と報道されながら、そこには利根的「幼児性」が読み取れます。それは先を見て辛抱する力、全うな自己表現力や感情の自己統制力が育っていない子ども達です。恐らく些細な過ちを契機として次第に周囲との絆を喪失し、これらの力を育てられずに、非現実空間でやっと自己の存在を確認するような、「育ちを失った」子ども達なのでしょう。

いったい非行とは何なのでしょう。私も参加していた司法福祉研究会は四半世紀ほど前に『非行をのりこえる』という本を出し、非行の本質と現象をしっかりと見据え、否定の中に肯定を発見する対処法を提案しました。当時は、学校現場で非行と格闘し「非行は子どもの全人格崩壊」の結果だとする真面目な教師達から「甘すぎる」との批判を受けたものでした。それは子どもと一緒に非行を否定すると同時に、「子どもは過ちを犯しながら成長する」という本質を忘れず、非行という「否定」の中にも「肯定」を発見し、在るがままの子どもを

受け容れて非行克服力を引き出そうとしたものでした。一時流行した「ラベリング論」も初発非行での犯罪者ラベルの固定化が本格的犯罪者を創り出すとの警告を発したのですが、「絆論」のハーシイは身近かな者への愛着、築き上げてきた生活への拘り、邁進出来る日常活動、親等への尊敬と価値の共有等の肯定的自己形成が人を犯罪から遠ざけると考えました。要は児童の

権利条約第40条にあるように、非行少年とされる「当の子ども自身が人間としての尊厳を大切にされ、自己の価値を尊重されるような仕方であられる権利を持ち、それによって当の子どもが他人の人権や基本的自由を尊重するように育てられる」ことによって非行を克服出来るということでしょうか。

ボランティア活動のなかで将来の「一番やりたいこと」を見つけ、その目標に向かって勉強している通信制高校生の坂本奈美さんが「勉強は嫌い。だけど自分の夢をかなえるためだったら全然苦痛に思わない」（『FUKUSHI TICHIGI』316号）と語り、自立援助ホームの星俊彦氏が、子ども達にとって必要なのは「一緒に生きていくことの出来る、一緒に歩いてくれるまともな普通の大人」（同上）だと語り、今は立派

な企業家となっている研正夫氏が「俺が真面目にやっていることを望んでくれる人がいることに気づき……悪いことが馬鹿らしくなってきた」（『俺達の少年期』法政出版）と語る時、子どもの成長にとって展望や自己肯定、その条件造りが如何に大切かを教えられます。だからこそ最近の少年犯罪を見る時も、現象に振り回されない覚悟の必要性を痛感するのです。

（訓練スタッフ・日本福祉大学副学長）

最近の少年犯罪を どうとらえるか

山口幸男



1997年度 事業報告

1997年度の事業の概略を報告させていただきます。愛知のちの電話協会の電話相談活動に、この年もかわらぬご支援を賜りました賛助会員、賛助法人並びに寄付者（個人及び団体）の皆さまに心よりの感謝を申し上げます。また一年を通じて一日の休みもなく奉仕を継続して頂きました相談員の方々のご労苦にあらためて敬意と感謝を申し上げます。

理事会報告

3年にわたった開局10周年記念事業が完了し、1997年度は、新しい飛躍を目指して前進をはかる年と意気込んだ年でありましたが、予期しない大きな変化を経験することになりました。

最大のものは、開局以来の初代理事長相馬信夫司教が年度のなかばに天に召されたことでした。当協会にとっての大きな痛手ではありましたが、相馬理事長の遺された意志を継承するとともに新しい時代へのステップを意図して、組織の若返りを願いつつ長岡利貞新理事長以下の理事、評議員の構成を新しくすることが出来ました。下記の方々に、理事、評議員としてのご奉仕を願うこととなりました。

いま一つの大きな変化は、社会福祉法人として、従来愛知県民生部の指導監督の下にありましたものが、1997年度より、名古屋市民生局の指導を受けることになりました。このため、名古屋市民生局長以下の担当者との協議の上、監査を受けたり、定款変更等をこの年度内に済ませ、組織としての明確化を進めることが出来ました。

相談員養成講座は、前年度に引きつづき、第10期養成講座を実施いたしました。相談員の継続研修、スーパービジョンは、従来の進め方に、新しい力点を加えて、進行中であります。ボランティア相談員諸氏の熱意と、訓練指導を奉仕頂く講師の方々のご尽力にも感謝と敬意を表す次第であります。

電話相談の受信件数は、年間総計12,995。開局以来の受信総数は170,858件（98年3月末）に達しました。依然として、いじめの問題や児童虐待等への憂慮もあり、いのちの電話への社会の関心や期待は益々強まっていくことが感じられます。

10周年記念事業としてスタートしたフリーマーケットは、今年度も東別院の好意により10月に開催し、成果をあげることが出来ました。リサイクルと環境保全への市民の関心に応じて、次年度も新しい発想を加えて実施されることとなります。

2月には電気文化会館にて、チャリティコンサートを企画し、野村勤氏と葦笛の会によるフルート合奏に好評を博することが出来ました。

深刻な不況が続く、きびしい経済環境の中にも、かわらぬ資金の上のご支援をお寄せ下さる個人、法人並びに団体の皆さまに、厚く御礼申し上げます。

社会福祉法人愛知のちの電話協会

理事長 長岡利貞

理事 豊田壽子、笠原 嘉、野村純二、鈴木郁雄、岡部快圓、木本精之助

監事 内河恵一、小山 勇

評議員 長岡利貞、西沢信正、水谷 颯、山口幸男、加藤迪春、梶原 寿、川原 恵、柿本大真、木島正司、兼田智彦、長井 潤、安藤和彦、浜下訓子、常富佳子、キース ハンフリーズ

常務理事 木本精之助

総務委員会報告

恒例の行事については次のように取組みました。
フォーラム まだ定式が確立しないまま12年目を迎えましたが、近年は相談員相互の交流懇談という形に固まってきました。7月26日 ウイル愛知の会議室と和室で行われました。台風接近中でしたが、長井委員のフラメンコギターの演奏と全国大会のビデオ、和室ではアンケートをもとにした懇談もなごやかにすすめられました。

フリーマーケット 10月19日 東別院で開かれました。出店は67で少なめでしたが、名城ライオンズクラブの協力があり234,110円の収益がありました。

講演会 かんぽ「心の健康増進セミナー」は10月25日YWCAにて川原啓美先生の講演「生きることそして死ぬこと」が行われ、120人が参加しました。会場超満員の人々は、一部中日新聞にも連載された貴重な体験談に大きな感銘を受けました。

チャリティーコンサート 2月19日 フルート野村勳氏・葦笛の会の協力を得て電気文化会館で開かれました。フルートアンサンブルを始めての人も多く、大変楽しいコンサートでした。230人の参加があり434,245円収益がありました。

今年からは社会福祉法人の所轄が県から市に移ったということもあり、谷田武彦市議員のお口ぞえで市の担当局長・部長らとの懇談会(7月9日)を持つことができ、当局の理解を深めることができました。

以前の運営委員から総務委員と名前が変わって以来、その職域について議論されてきました。年2回の定例理事会では処理できない問題を臨機応変にとり組むことが望まれます。市当局との連絡や賛助会員とのかかわり、拡大。それから懸案の24時間体制のための場所の問題は重要な課題であります。相談員の就務環境の改善。相談員の会できりまとめられた要望の理事会との調整等まだ手つかずで次期に申送ることになってしまいました。

(総務委員長 水谷 颯)

訓練委員会報告

☆ 1997年度の養成講座(A班)では37名が相談員の認定を受けてすでに活躍中、(B班)では28名が受講中で、10月には新しい戦力として加わることになる。例年に比べ応募者が多かったことから、やや変則的になったが、これも電話相談が市民権をえたことの証しとして喜ぶたい。継続研修は2年をサイクルとした新しい方法を採用したが、この成果についてはやがて総括することになる。ケース研究会は4回開き当面する「頻回通話者」をテーマとし、その話し合いの中で電話相談の在り方が厳しく問われた。

★ さて、私達の活動が始まって今年で13年目に入る。人間の発達になぞらえていえば、13歳は思春期、親から自立をはかる年齢である。少年少女期であれば、親のしつけに忠実であればよい子とみなされ、多少の自画自賛もお愛敬として大目にみられる。しかし、思春期はそうはいかない。与えられたことに疑問を持ち、吟味しなおす批判の時期である。また深く自問自答する時期でもある。このいずれもが健康な動きであることは言うまでもない。第17回全国研修会はそのよいきっかけであった。

☆ 訓練委員会がいつも苦心するのは、電話相談の理念や原則に関することは意外に少ない。むしろ、継続研修の欠席者・スーパーヴィジョンの未終了者・登録研修欠席者などいわば例外的な事例について、相談員の個々の事情をふまつつ、相談員手帳に掲げられている原則に照らして、いかに厳正・公平な判断をするかという点である。ボランティア活動の特質である自発性と申し合わせとのジレンマにいつも悩む。ボランティア活動に「忙しい」という遁辞はないというのが、杓子定規は不似合いである。それぞれが事情や理由を「きちんと」主張することができればと思う。

★ 4月6日の訓練委員会で山口真人氏を次期の委員長に選んだ。経験豊かな気鋭の人、初心を重んじつつも柔軟な発想の人、新しい時代を担う適切な委員長がえられたことを皆さんとともに喜ぶたい。

(訓練委員長 長岡利貞)

財務委員会報告

1997年度の収支をご報告申し上げます。

当年度のわが国の景気動向は停滞から下降気味でありましたが、総体的には前期（但し基本金繰入れ24,500千円を除く）と略同様な決算となりました。

これは、偏に会員各位の本事業に対するご理解とご協力の賜物でございまして先ずもって厚くお礼を申し上げます。

しかし、収入と支出の対前期比についてご注

目して戴きたい数値があります。

収入＝法人個人会費＋賛助会費＋寄付金＋年末募金

'96年度期 13,659千円 100.0%

'97年度期 11,424千円 83.6%

差 額 △2,235千円 △16.4%

支出＝人件費＋旅費・交通費＋共益費＋水道高熱費

'96年度期 11,795千円 100.0%

'97年度期 11,949千円 101.3%

差 額 +154千円 +1.3%

1997年度収支計算書

(単位 円)

借 方 (支出の部)		貸 方 (収入の部)	
科 目	1997年度決算額	科 目	1997年度決算額
事業費支出	16,237,562	事業収入	15,802,178
教育・訓練費	2,661,941	助成金	650,000
広報費	671,280	共同募金配分金	700,000
調査・研究費	108,120	会費(法人)	5,055,000
渉外費	328,300	会費(個人)	260,000
特別事業費	519,094	賛助会費(A)	1,340,000
職員給与・賞与	4,850,720	賛助会費(B)	745,000
福利厚生費	40,672	賛助会費(C)	538,000
退職引当金	600,000	相談員の会費	140,000
旅費・交通費	872,380	寄付金(個人)	1,415,525
通信費	319,830	寄付金(団体)	924,202
電話料	236,718	年末募金	1,006,867
印刷費	363,899	特別事業収入	1,367,584
事務用品費	34,427	講座受講料	1,610,000
会議費	37,098	基金募金収入	50,000
郵便振替負担料	45,060	事業外収入	303,232
支払手数料	14,905	受取利息	238,822
連盟負担金	284,000	雑収入	64,410
諸会費	10,000		
共益費	1,440,000		
水道光熱費	960,000		
備品・消耗品費	225,745		
営繕費	50,000		
租税公課	47,444		
拠出金	15,400		
雑費	93,029		
事業外支出			
基金繰入	11,346		
総計	16,248,908	前期繰越剰余金	1,733,961
当期繰越金	1,590,463		
合 計	17,839,371	合 計	17,839,371

すなわち、

収入は減ったにもかかわらず、支出が若干ながら増加しているという点です。

現時点では、神経質になるポジションではありませんが、こういう数値は一般企業の場合には黄信号となります。

今年度の収入予算は、14,860千円を計上しておりまして前期実績より3,436千円も多く、30%増に当たります。

従って、今年度は収入増に相当注力し、支出

抑制にも心掛けなければなりません。

基本財産約6千万円を活用して自前の土地、建物を取得し、24時間体制の実現を展開している時、安定した収入・法人会費の収入増を計り、その範囲内で恒常的支出をすること“入るを量って出るを制す”を絶えず心してまいります。

どうか、このような状況をよくご理解くださいます。本年度も格別ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(財務委員長 加藤迪春)

1998年度予算

(単位 円)

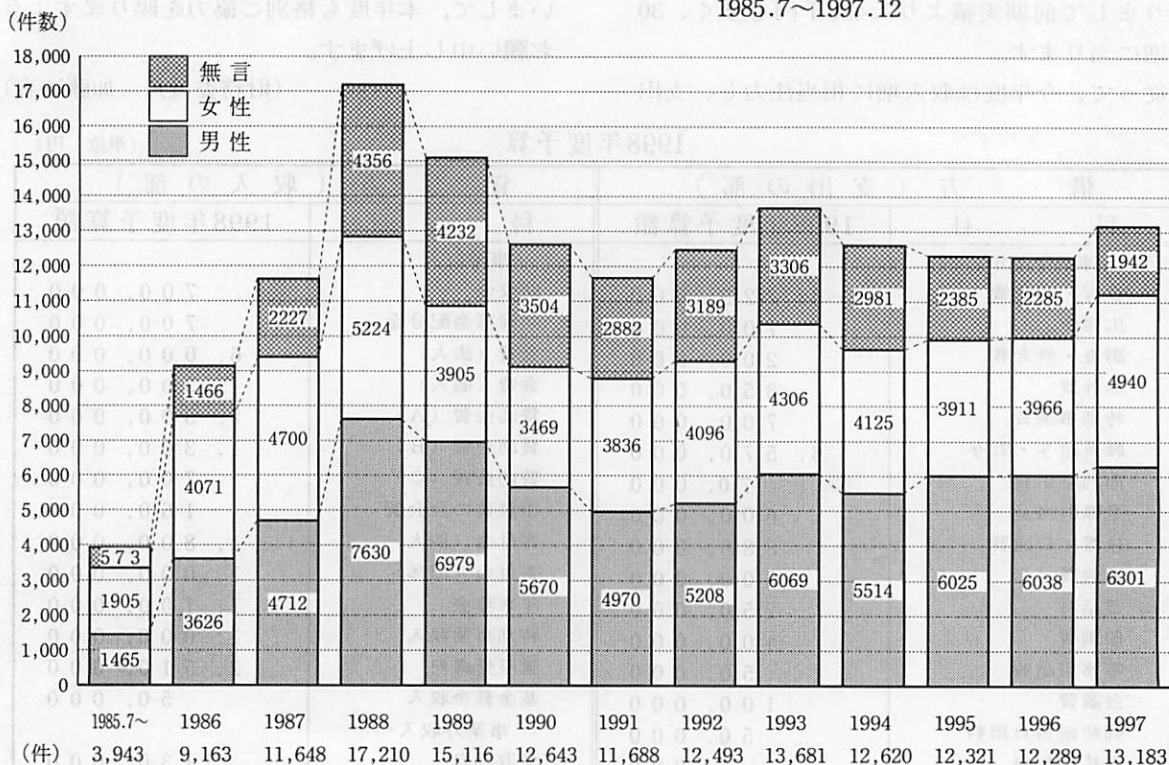
借 方 (支出の部)		貸 方 (収入の部)	
科 目	1998年度予算額	科 目	1998年度予算額
事業費支出		事業収入	
教育・訓練費	3,225,000	助成金	700,000
広報費	700,000	共同募金配分金	700,000
調査・研究費	200,000	会費(法人)	6,000,000
渉外費	350,000	会費(個人)	300,000
特別事業費	700,000	賛助会費(A)	2,500,000
職員給与・賞与	6,570,000	賛助会費(B)	1,300,000
福利厚生費	70,000	賛助会費(C)	700,000
退職引当金	600,000	相談員の会費	160,000
旅費・交通費	880,000	寄付金(個人)	1,800,000
通信費	500,000	寄付金(団体)	1,000,000
電話料	250,000	年末募金	1,100,000
印刷費	400,000	特別事業収入	1,000,000
事務用品費	50,000	講座受講料	2,510,000
会議費	100,000	基金募金収入	50,000
郵便振替負担料	50,000	事業外収入	
支払手数料	5,000	受取利息	130,000
連盟負担金	290,000	雑収入	70,000
諸会費	20,000		
共益費	1,440,000		
水道光熱費	960,000		
備品・消耗品費	200,000		
営繕費	100,000		
租税公課	20,000		
拠出金	100,000		
保険料	20,000		
雑費	100,000		
基金繰入	2,120,000	小計	20,020,000
		前期繰越剰余金	0
合 計	20,020,000	合 計	20,020,000

グラフで見る名古屋いのちの☎

○13年間の受信件数の推移 (1985年7月～1997年12月)

1985年からの総受信数は152,732件で、相談員との会話がなかった無言電話35,328件をのぞくと相談電話の受信数は117,404件となります。(1997年12月31日現在)
1997年は1日あたり30.8件の相談電話を受信しています。

1985.7～1997.12



電話相談と社会資源

電話相談のなかでさまざまな社会資源を使ったり、紹介することがある。

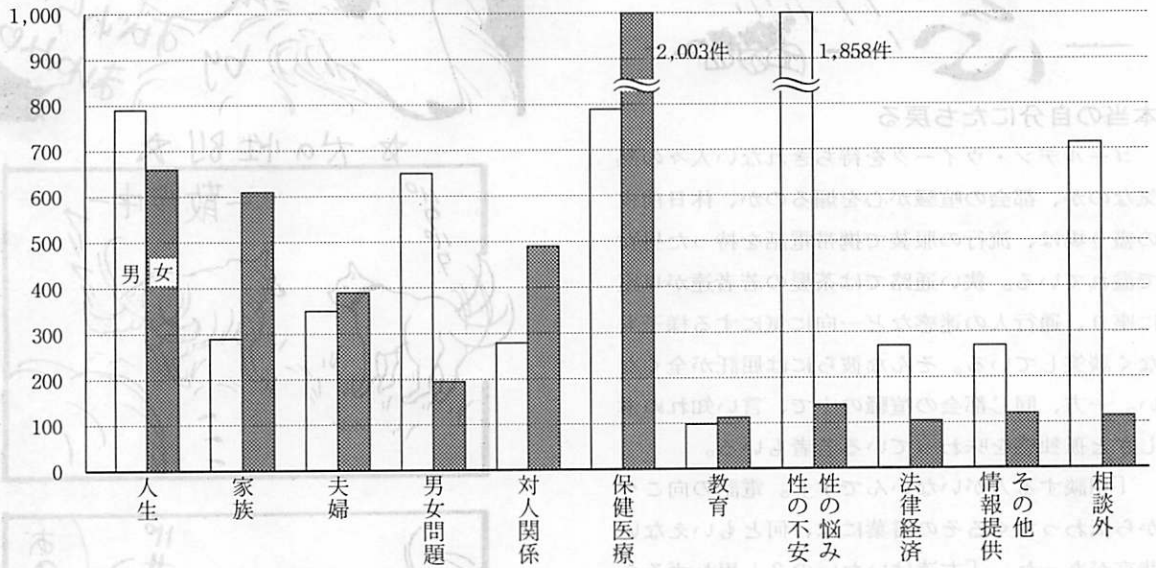
電話相談では「問題を解決する」ことよりもまず「利用者とのかかわりのなかで、解決の方法や方向を見いだす」ことが中心となる。つまり、さまざまな問題を抱えて困っている利用者にたいして、誠実な聞き手・親身な協力者になることだと言われている。

電話相談員のなかには「ただ相手の話を聞くだけで相談が終わってしまうのだが、それでいいのだろうか」といつも思っている人達もいる。しかし、電話相談員にできる最も重要なことは「相手の話を聴くこと」なのだ。

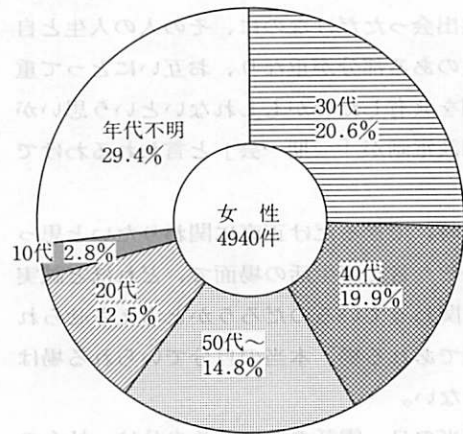
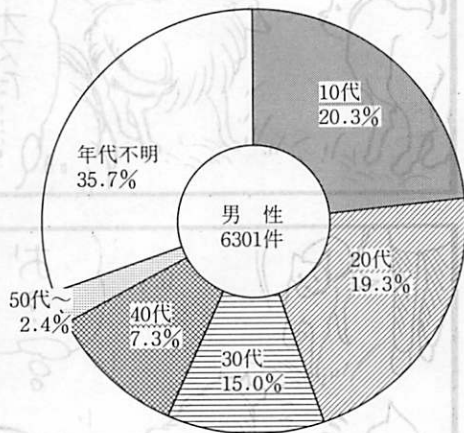
このように考えると、電話相談での問題解決には地域社会やさまざまな社会資源とのネットワークが必要なのだろう。

○相談内容男女別の相談件数

(件数) □ 男性 6,301件 ■ 女性 4,940件 総件数 11,241件 (1997.1~12)

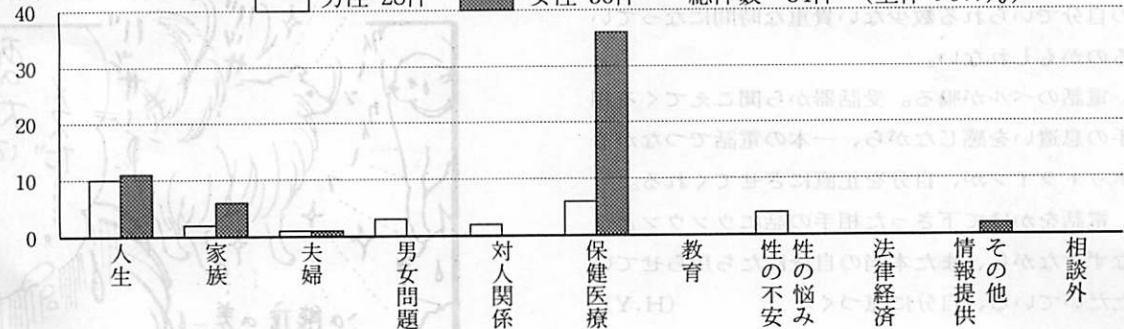


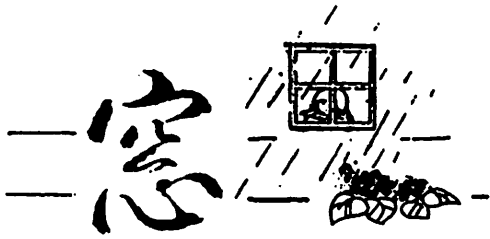
○男女別・年代別の相談件数



○自殺指向電話の相談内容男女別件数 (1997.1~12)

(件数) □ 男性 28件 ■ 女性 56件 総件数 84件 (全体の0.7%)





本当の自分にたち戻る

ゴールデン・ウィークを待ちきれない人々の熱気なのか、都会の喧騒が心を煽るのか、休日前夜の盛り場は、流行の服装で携帯電話を持った男女で溢れている。狭い通路では茶髪の若者達が車座に座り、通行人の迷惑など一向に気にする様子もなく談笑している。そんな彼らには屈託が全くない。一方、同じ都会の喧騒の中で、言い知れぬ淋しさと孤独感を味わっている若者もいる。

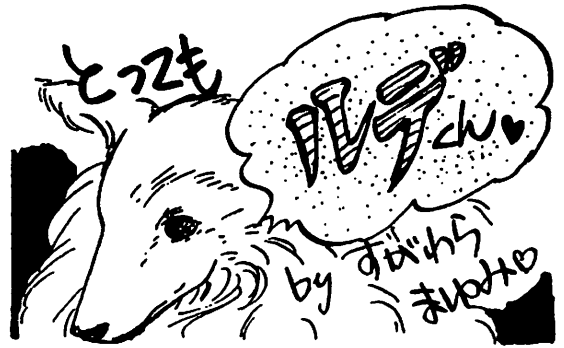
「相談する人がいないんです」。電話の向こうから伝わってくるその言葉には、何ともいえない悲哀があった。「友達はいないの？」思わずそう聞き返しそうになる。たまたまかかってきた電話で、偶然出会っただけなのに、その人の人生と自分の人生のある部分が重なり、お互いにとって重要な時間を共有したのかもしれないという思いがある。相談電話が「一期一会」と言われるわけである。

そんな時、できるだけ正直に関わりたいたいと思っている。そう言えば生活の場面で、どれほど誠実に相手に関わっているのだろうかと考えさせられる。正直である場、本当の自分でいられる場は確かに少ない。

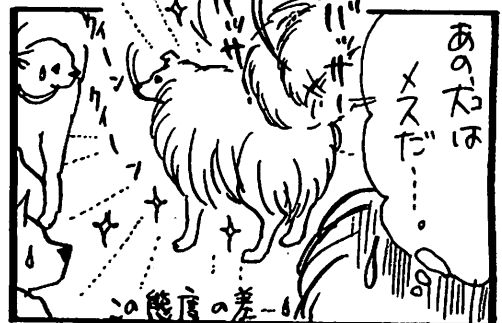
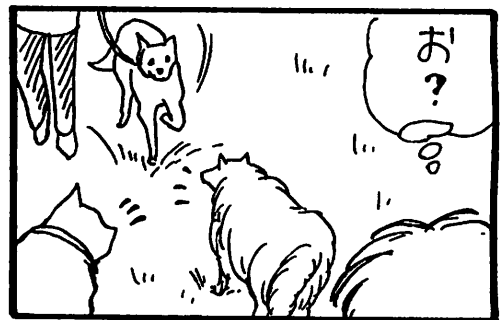
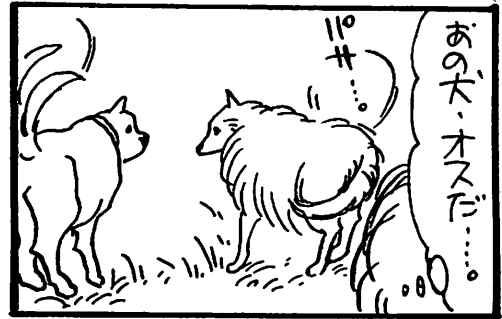
電話担当の日、電話の前に座る自分は、社会の役割りからも開放されている。肩書きや名前さえも明らかにされない相手との関わりの時が、本当の自分でいられる数少ない貴重な時間になっているのかもしれない。

電話のベルが鳴る。受話器から聞こえてくる相手の息遣いを感じながら、一本の電話でつながるホットラインが、自分を正直にさせてくれる。

電話をかけて下さった相手の話にウンウンとうなずきながら、また本当の自分にたち戻らせていただいている、自分に気づく。(H.Y)



★ 犬の性別 ★



ご援助ありがとうございます

1998年1月1日より4月末日までに下記の方々から暖かいご支援をいただきました。一同深く感謝いたしますと共に
 にご報告申しあげます。(順不同・敬称略)

なお、上記期間内に何度もご寄付くださった方もお名前は1回にさせていただきます。

社会福祉法人愛知のちの電話協会
 理事長 長岡 利貞
 財務委員会

賛助会員A

内河 恵一	西村 洲衛男	内藤 弘	伊部 宏	水野 由吉	神田 正春
前田 豊子	伊藤 美江子	石川 頤次	梨本 將代	佐藤 あさ子	鳥井 寛
吉田 弘明	吉田 好枝	加藤 順子	田中 健次郎	加藤 迪春	松平 實胤
塩野 高子	牧岡 恒夫	朽久保 滯子	飯尾 てる	西田 史郎	梶原 寿
三田村 とま子	カトリック蟹江教会	在日大韓基督教名古屋教会女性会		金城教会福祉社会委員会	

賛助会員B

柏谷 靖彦	鶴野 秋伯	田内 昭	島田 吉枝	岩田 鏡一	野村 妙子
金森 タイ	児玉 篤尚	橋本 良男	梶原 久江	水野 久	近藤 直枝
伊藤 恵美子	阿知波 達仁	グラバア俊子	三浦 一秋	大和田 康司	宮内 英夫
直井 ヒサ	神田 輝夫				

賛助会員C

小林 厚	片岡 倭子	中井 文子	犬塚 稔枝	春日部 道	能登 みい子
村山 一枝	内藤 克子	浅野 記代子	藤谷 道代	鶴田 和子	野村 紘子
神谷 將弘	石田 喜代子	小川 祐美子	中辻 三千代	宮本 信代	神尾 初子
柏子見 昌敏	加藤 みゆき	平野 隆市	小川 邦泰	加藤 雄一	水谷 真子
河原 博子	相馬 貞藏	小島 初江	太田 重一	三上 茂	川崎 秀子
竹内 宏子	土屋 美恵子	川原 恵	松浦 三千夫	林 純子	中川 晋介
植木 貞次郎	斉藤 喜世子	山下 マサメ	日本福音ルーテル復活教会婦人会		

会費(個人)

西沢 信正 笠原 嘉 豊田 蔚子 長岡 利貞

寄付金

朝倉 夏雄	守田 てる	中村 三郎	内川 正邦	島田 吉枝	風岡 良子
中川 鋪子	片岡 ミチエ	豊田 江美	松田 一路	鳥山 美保子	岡崎 和子
菅沼 恒子	高橋 郁子	武保 輝彦	山本 澄子	足立 篤子	加藤 みゆき
高須 瑞枝	浦下 桂子	本田 健次	安原 律子	沼野 篤子	豊田理恵・理彰
四日 薫	井沢 陽子	豊田 英二	榎本 久美江	神田 陽子	小島 丈夫
横井 公子	見木 靖美	山下 タカ子	佐藤 辰一	土屋 美恵子	生川 和子
石田 弘幸	小坂橋 秀行	後藤 忠一	山田 正代	直井 ヒサ	清水 将之
斉藤 喜世子	土田クリスティーナ	日本基督教団名古屋中央教会		ヘンデル協会	カトリック東山教会

名古屋ステパノ教会 カトリック高蔵寺教会 カトリック岐阜教会壮年会 金沢聖霊修道院
 日本基督教団名古屋東教会婦人会 日本基督教団愛知教会婦人会 カトリック名古屋教区信徒使徒職協議会
 布池カトリック教会 名古屋学院大学宗教部 名古屋北教会社会奉仕委員会 金城教会福祉社会委員会
 港カトリック教会 川名山聖霊修道院 名古屋神召キリスト教会内村撒母耳 有限会社エイコー

点滴

夜遅く、半分眠ったような状態で湯船につかっていると、涙が流れてくることがある。

以前、半年近く毎晩のように床について電気を消すと、涙が出ていたことがあった。悲しいことがあったわけでもなく、辛いことを思い出したわけでもないのにどうしてか不思議な気がしていた。ただ静かにしばらく涙が流れているのである。

そんなことが続いたある日、テレビでストレスについての放送を見た。ストレスの強さを機械で測る実験のようなことをしていた。ストレスが高まって被験者が涙を流した瞬間、ストレスの強さを示していたグラフの線がスーッと下降した。その時、私は自分の涙の意味が分かったような気がした。

私はストレスの解消が下手である。スポーツもしない、カラオケにも行かない、絵も描かない。つまり表現するということが出来ない。趣味らしい趣味がなく、積極的にストレスを発散させるといことがない。私の涙は、きっとストレスをやわらげる働きをしているに違いない。そう思ったら、ただ不思議に感じていた涙がプラスのものに思えてきた。辛い大変な内容の話なのに、感情のこもらない淡々とした話し方をしていた相談者が途中で涙声になったり、泣きだしたりすることがある。そういう時安心して泣いていいのよと言ってあげたくなる。少し心を開いて、ちょっとだけでも気持ち楽になってくれたらと思う。(T.I)

年末クリスマス募金

内河恵一 竹内哲子 佐藤あさ子 春日部 道 松田百代子
 日本福音ルーテル希望教会 日本基督教団中京教会 カトリック平針教会 カトリック半田教会
 日本基督教団鳴海教会 一宮聖光教会 日本基督教団豊山教会 日本基督教団名古屋教会
 福井栄冠学園栄冠幼稚園 日本基督教団豊田教会 魚津カトリック教会 金城学院 日本基督教団天白教会
 日比野カトリック教会 日本基督教団南山教会 日本基督教団名古屋桜山教会 (財)名古屋YWCA
 カトリック南山教会 カトリック神宮修道会多治見教会 日本基督教団広路教会 (財)名古屋YMCA

賛助寄付

清水建設株式会社 豊田工機株式会社 株式会社城北自動車学校 財団法人名古屋中村法人会
 財団法人後藤報恩会 盛田株式会社 アイシン精機株式会社 株式会社タケヒロ 大橋鉄工株式会社

助成金

東海テレビ福祉文化事業団
 「年末助け合い運動」義捐金
 中日新聞社会事業団

第11期 養成講座の募集が始まります

受付期間 7月1日～9月7日まで

要項を希望される方は返信用封筒を同封の上事務局まで申し込んで下さい。

事務局：〒461-8691 名古屋東郵便局私書箱257号 名古屋いのちの電話事務局

養成講座期間：98年10月～1年間 毎週火曜日 18:15～21:00

賛助会員を募集しています

ご協力をお願いします

いつも資金ボランティアとして会費やご寄付をいただき有難うございます。心から御礼申し上げます。
 年間2,000万円の運営資金と共に、法人の基金を10年間で1億円積立の課題を与えられています。
 会員の皆様の倍旧のご支援と共に、会員増加の運動にもお力を添えて下さいますようお願いいたします。
 法人となり寄付金の税法上優遇措置が受けられます。誠に失礼ですが振込票を同封させていただきます。
 ご利用くだされば幸いです。

- (1) 法人会費 年間5万円・10万円・20万円
- (2) 賛助会員(年間1口) A 10,000円 B 5,000円 C 3,000円
- (3) 一般寄付はご自由な金額で結構です。
- (4) 夏期・年末寄付

口座名 社会福祉法人愛知いのちの電話協会 理事長 長岡利貞
 口座番号 東海銀行大津町支店(普) 477029
 郵便振替口座 00810-8-53758
 お問い合わせは… 社会福祉法人愛知いのちの電話協会 名古屋いのちの電話
 事務局 ☎ 971-5181

社会福祉法人愛知いのちの電話協会

1998年初夏

名古屋いのちの電話

〒461-8691 名古屋東郵便局 私書箱第257

1998年6月1日発行

事務局 ☎ 052-971-5181

郵便振替口座 00810-8-53758

発行人 長岡 利貞

相談電話 ☎ 052-971-4343

東海銀行大津町支店(普)預金口座 477029

編集人 広報委員会